

令和4年度「山形学」フォーラム 実施報告書(HP版)

◆開催日時：6月18日(土) 13:30～16:30

◆会場：遊学館ホール

◆テーマ：「食」からみる山形の地域課題」

◆内容：

13:30～13:45 開会・「山形学」オリエンテーション

13:45～14:45 基調講演：「子どもの食の変化に見える現代社会」

講師：安部貴洋氏（山形県立米沢栄養大学教授）

14:45～14:55 休憩

14:55～16:30 パネルディスカッション

「食事のあり方からみる地域の今までとこれから」

パネリスト：佐藤由美子氏（元生活クラブやまがた生活協同組合理事長）

：岡部 幸子氏（山形てのひら支援ネット会長）

コメンテーター：安部貴洋氏

コーディネーター：中川恵氏（「山形学」企画委員）

◆参加者数：104名

◆主催：公益財団法人山形県生涯学習文化財団 後援：山形県教育委員会

◆当日の様子

・安部氏は、現在子どもの食をめぐる変化のひとつに「孤食」があるとし、まず孤食の対極にある「一家団欒」についての考察を述べられた。「一家団欒」は理想的な家庭像と思われがちだが、実は戦後から1980年代初頭までのわずか30年しか存在しない出来事だったとし、人々の意識にのみ存在し日本の文化には定着しなかったものと紹介。「孤食」には、人との関りだけでなく、食にこめられた自然や人とのつながりが失われている。それらのつながりを取り戻す可能性を、近年の学校における食育や給食にみることができるとし、栄養大学で実践している食育活動の例として、さくらんぼ狩りや牛を見る散歩を題材にした食育絵本についてスライドで紹介してくれた。また、山形の食の歴史や文化、そして現在行われている保育や子ども食堂、地域での様々な実践に学ぶ必要が今後の課題となるとお話しされた。

佐藤氏は、学校給食の調理師として長年働き、現場では化学調味料や輸入食品を使わずに地産地消を心がけて調理した経験から気づいた子どもたちの変化や、安心安全な食べものを食べることが大切であるとお話しされた。岡部氏は自身が携わっている子ども食堂や地域食堂について立ち上げの経緯から運営方法、子どもたちの共食風景やスタッフとの交流などを映像を交えてお話しされた。子どもが歩いて通える距離を意識していること、今後もゆるやかなつながりを大切にして、学校とも家庭とも違う「私たちの居場所」を作っていきたいと語った。

参加者からは、「食の重要さを学んだ」、「大変興味深い話をたくさん聞けて勉強になった」、「家庭における食のあり方について考えさせられた」との声が多く寄せられ、好評だった。子どもたちの「孤食」をめぐる現状と子ども食堂など地域の課題にどう取り組むべきかを学ぶ有意義なフォーラムとなった。

参加者の声

- ・学校では聞けないことをたくさん学べました。食の重要性、ひしひしと感じました。
- ・食に関わる学校に通っているのので、このような講師の方々のお話を聞けてとても良かったです。
- ・普段学校で学んでいる栄養的な面のみでなく、保育園の散歩に同行してその体験を絵本にして広めていることが魅力的だと思いました。
- ・様々な視点から食について考えることができ、とても貴重な体験でした。今日得た学びをこれからの進路や将来に生かしていきたいと思います。
- ・子どもの頃米沢市で食べた給食はとてもおいしく、給食が楽しみで学校に行っていました。現在別の市に住んでいますが、米沢市との食育の違いをとっても感じています。米沢市の取り組みがどんどん広がっていったらと思います。
- ・家庭における食のあり方について考えさせられました。
- ・今まで食べもののおいしさにしか目がいかなかったが、一度視野を広げて食を通して色々な人と関わることや命の尊さについて考えることの大切さにも目を向けることで、食の面白さがすごく広がると感じました。



「山形学」オリエンテーション 「山形学」企画委員



基調講演



講師：安部貴洋氏



パネルディスカッション



パネリスト：佐藤由美子氏



パネリスト：岡部幸子氏



コメンテーター：安部貴洋氏



コーディネーター 中川恵氏



会場の様子